

# 今後の小・中・義務教育学校の在り方に関する意見交換会

令和5年7月  
肝付町教育委員会

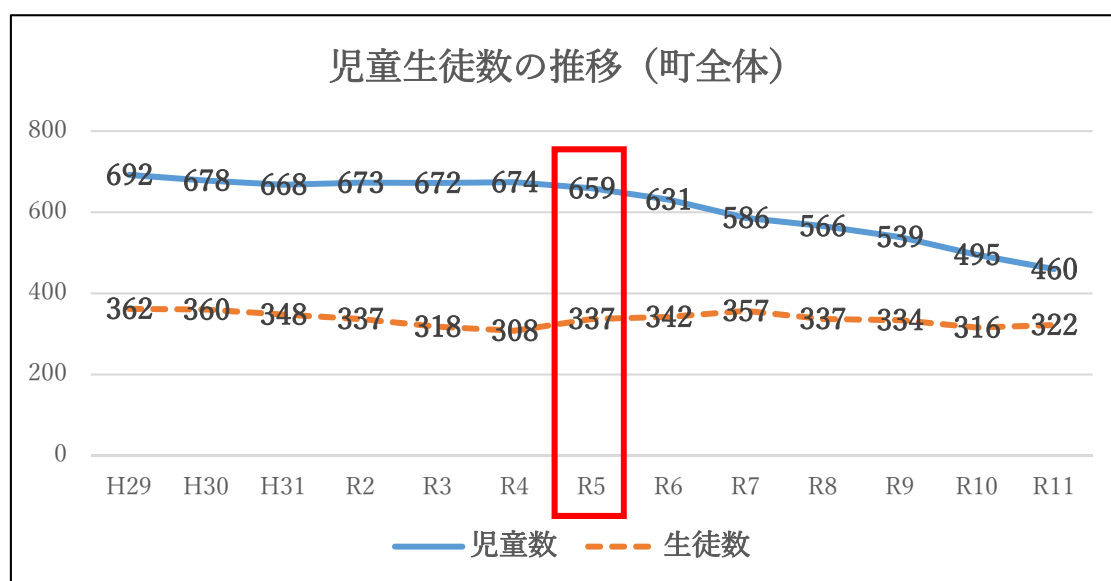
## 1. 目的

町全体で令和2年度まで1,000人を超えていた児童生徒数は、今後10年も経たないうちに800人を切り【表1参照】、町内にある小・中・義務教育学校の小規模化はさらに進むことが予想される。

特に、小・中・義務教育学校（以下「学校」という。）は、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付ける場であることから、保護者や地域住民の皆さんのご意見などを参考にしながら、今後の学校の在り方を検討するため、意見交換会を開催するものである。

【表1】児童生徒数の推移（町全体）

年度	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
児童数	692	678	668	673	672	674	659	631	586	566	539	495	460
生徒数	362	360	348	337	318	308	337	342	357	337	334	316	322
計	1,054	1,038	1,016	1,010	990	982	996	962	943	903	873	811	782



## 2. 検討の流れ（予定）

5月 学校の規模に関する保護者アンケートの実施

↓

7月 保護者との意見交換会の実施

↓

8月 地域住民との意見交換会の実施

↓

9月 検討委員会の立ち上げ

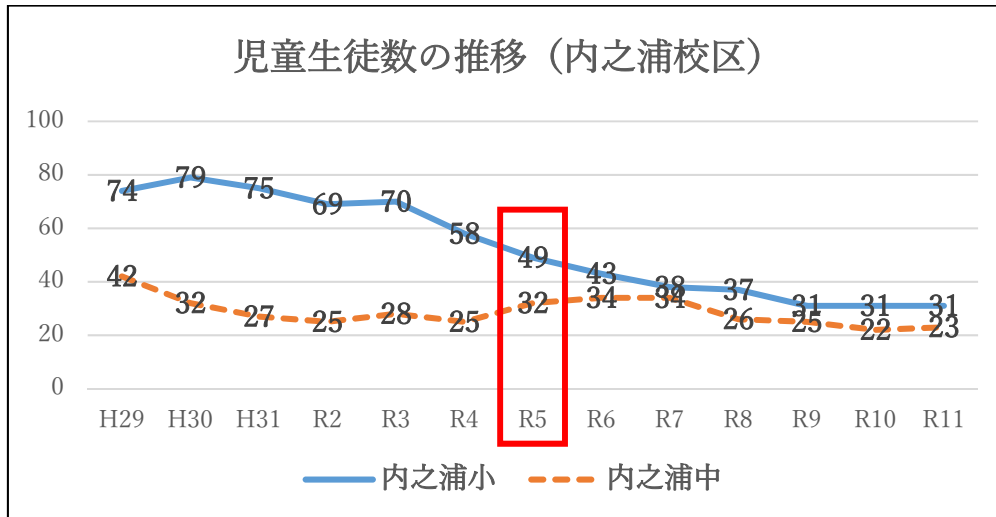
（メンバー）保護者の代表、地域住民の代表、議会の代表、町長部局の代表、学校の代表、子ども・子育て支援施設の代表、学識経験者 など

### 3. 現状と課題

#### (1) 内之浦校区

##### ①児童生徒数の推移

年度	H29	H30	H31	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R10	R11
内之浦小	74	79	75	69	70	58	49	43	38	37	31	31	31
内之浦中	42	32	27	25	28	25	32	34	34	26	25	22	23
計	116	111	102	94	98	83	81	77	72	63	56	53	54



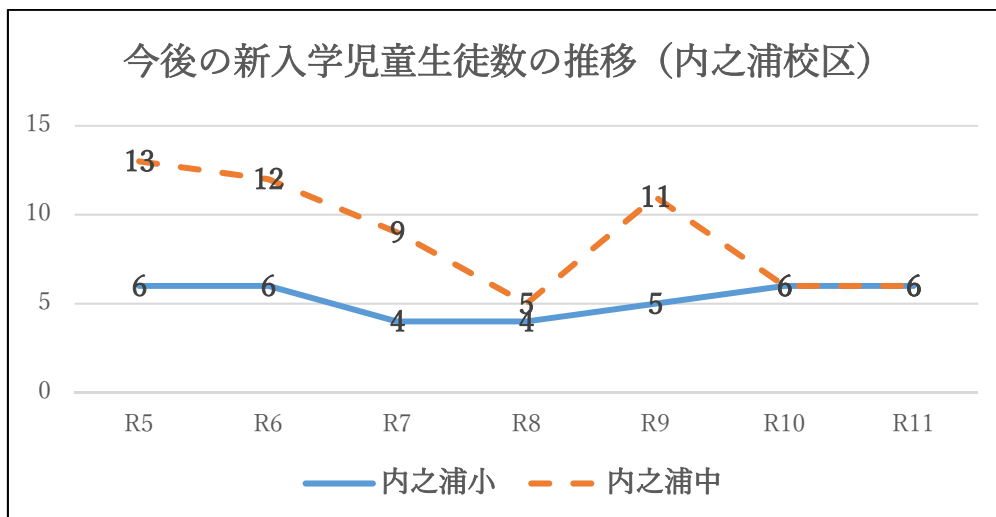
##### ②今後の学年別児童生徒数の推移

#### 内之浦小学校

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
R 5	6	6	11	5	9	12	49
R 6	6	6	6	11	5	9	43
R 7	4	6	6	6	11	5	38
R 8	4	4	6	6	6	11	37
R 9	5	4	4	6	6	6	31
R10	6	5	4	4	6	6	31
R11	6	6	5	4	4	6	31

#### 内之浦中学校

	1年	2年	3年	計
R 5	13	9	10	32
R 6	12	13	9	34
R 7	9	12	13	34
R 8	5	9	12	26
R 9	11	5	9	25
R10	6	11	5	22
R11	6	6	11	23



③これまでの学級数の変遷

内之浦小学校

	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
単式学級	6	6	6	6	6	4	4
複式学級	0	0	0	0	0	1	1
特別支援学級	1	2	2	2	2	2	2

内之浦中学校

	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
単式学級	3	3	3	3	3	3	3
複式学級	0	0	0	0	0	0	0
特別支援学級	1	1	1	1	1	1	1

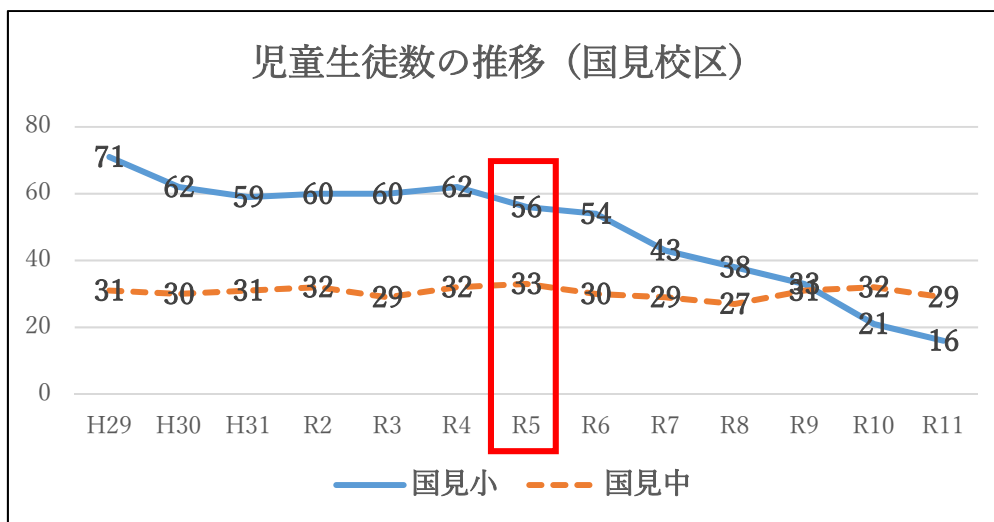
④部活動の設置状況（令和5年度）

バレーボール（女子）、サッカー【休部中】

**(2) 国見校区**

①児童生徒数の推移

年度	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
<b>国見小</b>	<b>71</b>	<b>62</b>	<b>59</b>	<b>60</b>	<b>60</b>	<b>62</b>	<b>56</b>	<b>54</b>	<b>43</b>	<b>38</b>	<b>33</b>	<b>21</b>	<b>16</b>
<b>国見中</b>	<b>31</b>	<b>30</b>	<b>31</b>	<b>32</b>	<b>29</b>	<b>32</b>	<b>33</b>	<b>30</b>	<b>29</b>	<b>27</b>	<b>31</b>	<b>32</b>	<b>29</b>
計	102	92	90	92	89	94	89	84	72	65	64	53	45



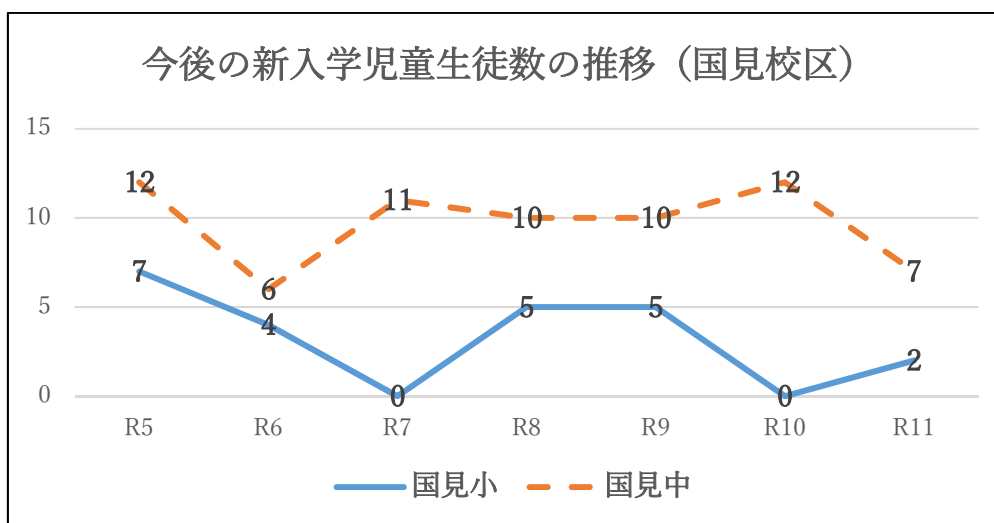
②今後の学年別児童生徒数の推移

**国見小学校**

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
R5	<b>7</b>	12	10	10	11	6	56
R6	<b>4</b>	7	12	10	10	11	54
R7	<b>0</b>	4	7	12	10	10	43
R8	<b>5</b>	0	4	7	12	10	38
R9	<b>5</b>	5	0	4	7	12	33
R10	<b>0</b>	5	5	0	4	7	21
R11	<b>2</b>	0	5	5	0	4	16

**国見中学校**

	1年	2年	3年	計
R5	<b>12</b>	12	9	33
R6	<b>6</b>	12	12	30
R7	<b>11</b>	6	12	29
R8	<b>10</b>	11	6	27
R9	<b>10</b>	10	11	31
R10	<b>12</b>	10	10	32
R11	<b>7</b>	12	10	29



③これまでの学級数の変遷

国見小学校

	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
単式学級	6	6	6	6	6	6	6
複式学級	0	0	0	0	0	0	0
特別支援学級	1	1	1	1	1	2	2

国見中学校

	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
単式学級	3	3	3	3	3	3	3
複式学級	0	0	0	0	0	0	0
特別支援学級	1	1	1	1	1	1	0

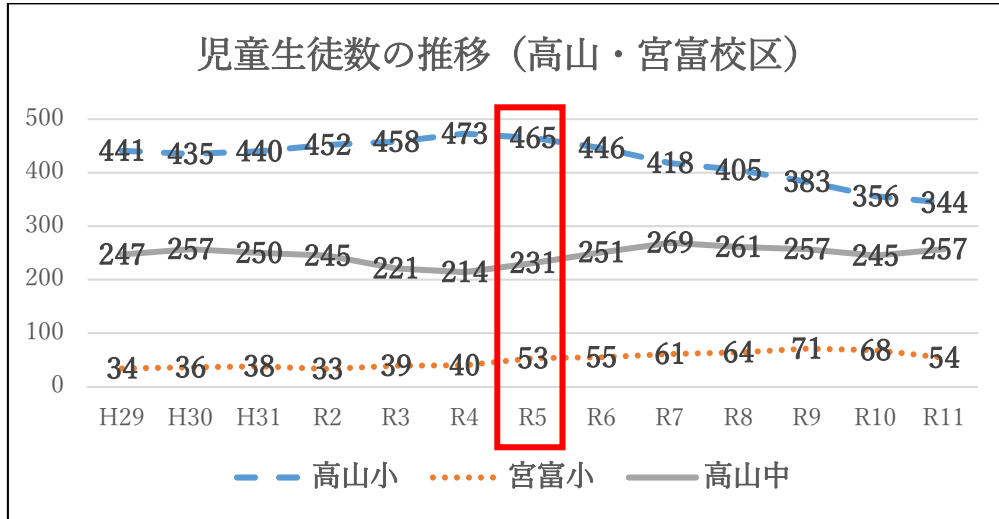
④部活動の設置状況（令和5年度）

野球、バレーボール（男子）

(3) 高山・宮富校区

①児童生徒数の推移

年度	H29	H30	H31	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R10	R11
高山小	441	435	440	452	458	473	465	446	418	405	383	356	344
宮富小	34	36	38	33	39	40	53	55	61	64	71	68	54
高山中	247	257	250	245	221	214	231	251	269	261	257	245	257
計	722	728	728	730	718	727	749	752	748	730	711	669	655



②今後の学年別児童生徒数の推移

高山小学校

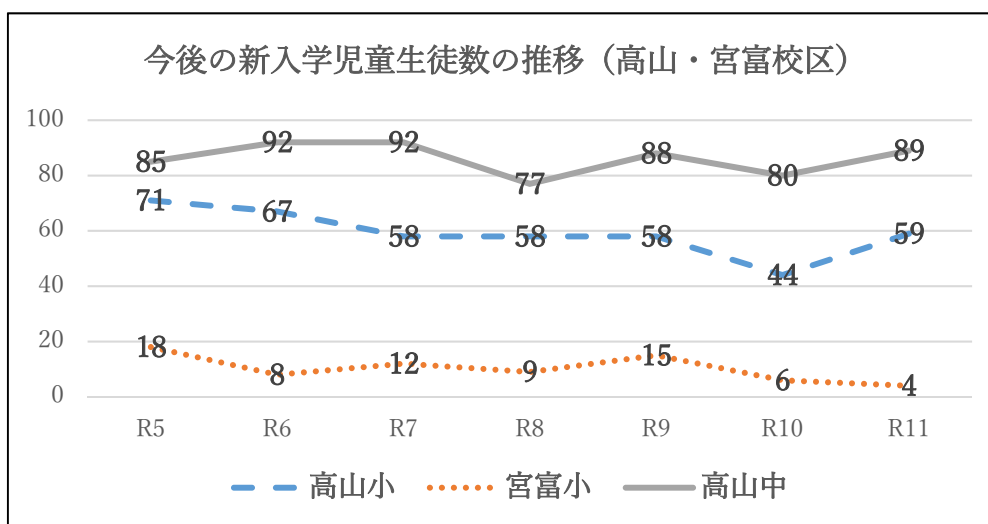
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
R 5	71	71	80	71	86	86	465
R 6	67	71	71	80	71	86	446
R 7	58	67	71	71	80	71	418
R 8	58	58	67	71	71	80	405
R 9	58	58	58	67	71	71	383
R10	44	58	58	58	67	71	356
R11	59	44	58	58	58	67	344

高山中学校

	1年	2年	3年	計
R 5	85	74	72	231
R 6	92	85	74	251
R 7	92	92	85	269
R 8	77	92	92	261
R 9	88	77	92	257
R10	80	88	77	245
R11	89	80	88	257

宮富小学校

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
R 5	18	9	8	6	6	6	53
R 6	8	18	9	8	6	6	55
R 7	12	8	18	9	8	6	61
R 8	9	12	8	18	9	8	64
R 9	15	9	12	8	18	9	71
R10	6	15	9	12	8	18	68
R11	4	6	15	9	12	8	54



③これまでの学級数の変遷

高山小学校

	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
単式学級	15	14	14	15	15	16	17
複式学級	0	0	0	0	0	0	0
特別支援学級	3	2	3	3	4	5	4

宮富小学校

	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
単式学級	2	2	2	2	2	2	2
複式学級	2	2	2	2	2	2	2
特別支援学級	0	0	0	0	1	1	2

高山中学校

	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
単式学級	8	8	7	7	6	6	6
複式学級	0	0	0	0	0	0	0
特別支援学級	1	2	3	3	2	2	2

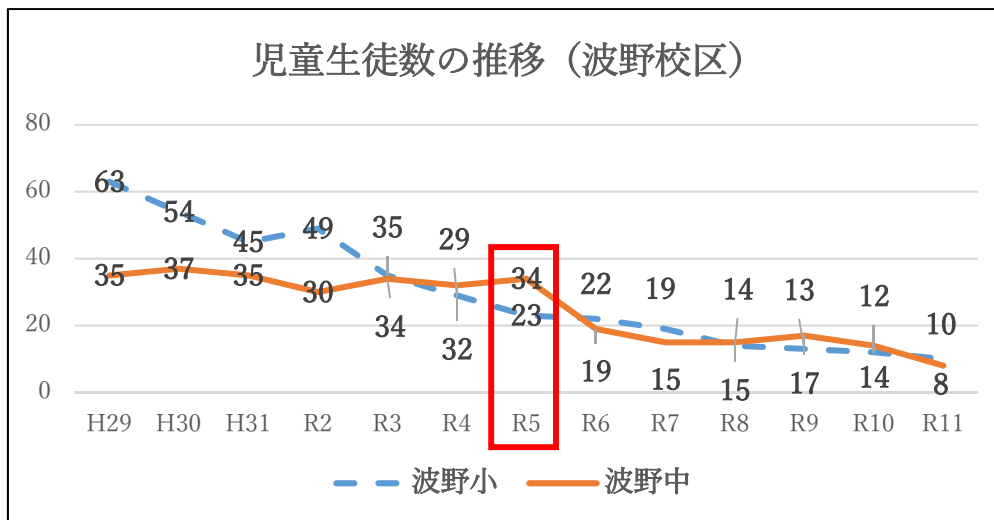
④部活動の設置状況（令和5年度）

野球、陸上、ソフトテニス、バレーボール、バスケットボール、柔道、剣道、空手道、吹奏楽

**(4) 波野校区**

①児童生徒数の推移

年度	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
<b>波野小</b>	<b>63</b>	<b>54</b>	<b>45</b>	<b>49</b>	<b>35</b>	<b>29</b>	<b>23</b>	<b>22</b>	<b>19</b>	<b>14</b>	<b>13</b>	<b>12</b>	<b>10</b>
<b>波野中</b>	<b>35</b>	<b>37</b>	<b>35</b>	<b>30</b>	<b>34</b>	<b>32</b>	<b>34</b>	<b>19</b>	<b>15</b>	<b>15</b>	<b>17</b>	<b>14</b>	<b>8</b>
計	98	91	80	79	69	61	57	41	34	29	30	26	18



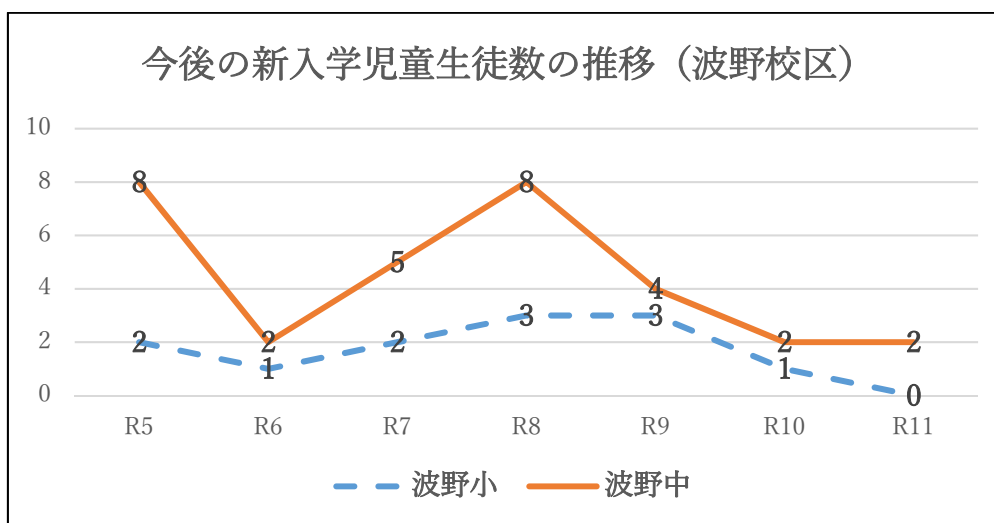
②今後の学年別児童生徒数の推移

**波野小学校**

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
R5	<b>2</b>	2	4	8	5	2	23
R6	<b>1</b>	2	2	4	8	5	22
R7	<b>2</b>	1	2	2	4	8	19
R8	<b>3</b>	2	1	2	2	4	14
R9	<b>3</b>	3	2	1	2	2	13
R10	<b>1</b>	3	3	2	1	2	12
R11	<b>0</b>	1	3	3	2	1	10

**波野中学校**

	1年	2年	3年	計
R5	<b>8</b>	9	17	34
R6	<b>2</b>	8	9	19
R7	<b>5</b>	2	8	15
R8	<b>8</b>	5	2	15
R9	<b>4</b>	8	5	17
R10	<b>2</b>	4	8	14
R11	<b>2</b>	2	4	8





③これまでの学級数の変遷

波野小学校

	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
単式学級	6	6	2	4	2	0	0
複式学級	0	0	2	1	2	3	3
特別支援学級	1	1	1	1	1	1	1

波野中学校

	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
単式学級	3	3	3	3	3	3	3
複式学級	0	0	0	0	0	0	0
特別支援学級	0	0	0	0	1	1	1

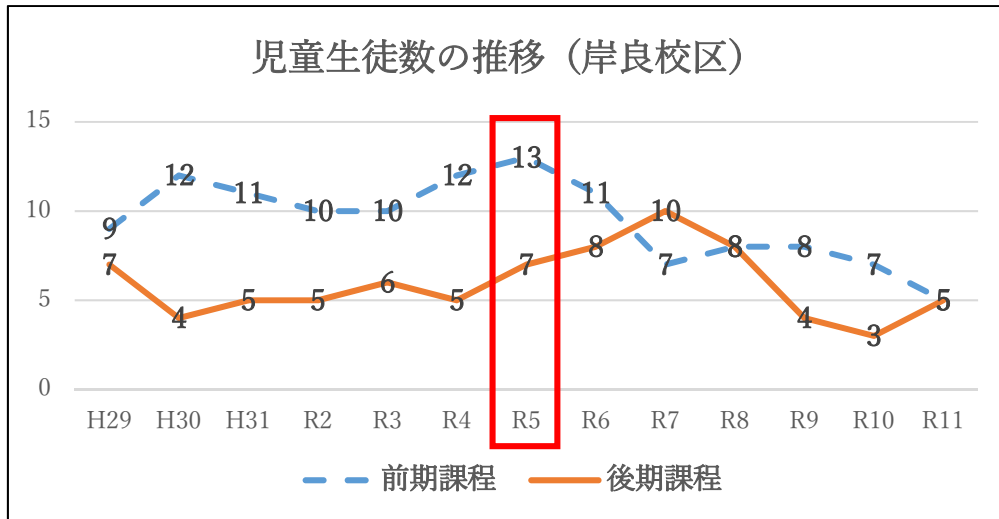
④部活動の設置状況（令和5年度）

野球、陸上

(5) 岸良校区

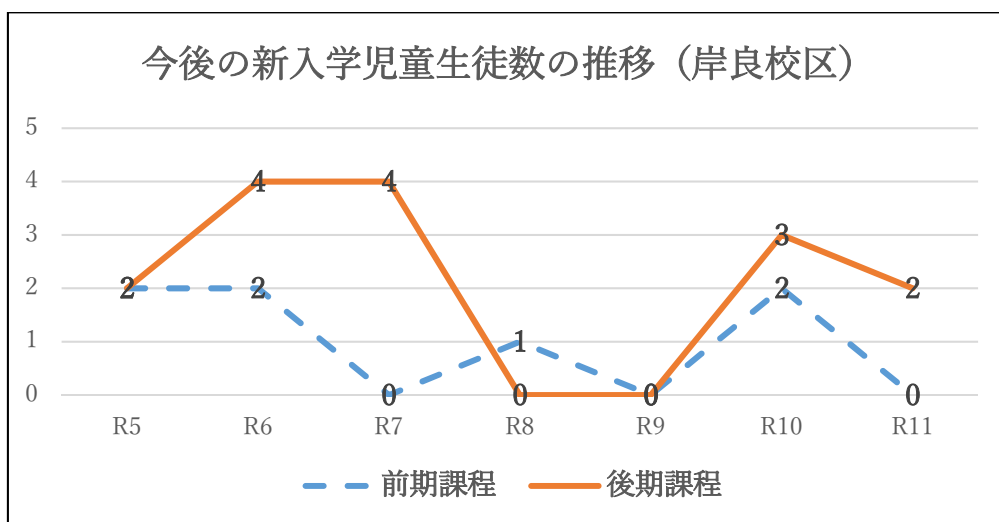
①児童生徒数の推移

年度	H29	H30	H31	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R10	R11
前期課程	9	12	11	10	10	12	13	11	7	8	8	7	5
後期課程	7	4	5	5	6	5	7	8	10	8	4	3	5
計	16	16	16	15	16	17	20	19	17	16	12	10	10



②今後の学年別児童生徒数の推移

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	計
R 5	2	3	0	0	4	4	2	2	3	20
R 6	2	2	3	0	0	4	4	2	2	19
R 7	0	2	2	3	0	0	4	4	2	17
R 8	1	0	2	2	3	0	0	4	4	16
R 9	0	1	0	2	2	3	0	0	4	12
R10	2	0	1	0	2	2	3	0	0	10
R11	0	2	0	1	0	2	2	3	0	10



③これまでの学級数の変遷

前期課程

	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
単式学級	2	0	0	1	0	0	0
複式学級	1	3	3	2	2	2	2
特別支援学級	0	0	0	0	0	1	1

後期課程

	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
単式学級	1	1	1	1	0	0	1
複式学級	1	1	1	1	1	1	1
特別支援学級	0	0	0	0	0	1	1

④部活動の設置状況（令和5年度）

ソフトテニス

## 4. その他

### (1) 学校の標準規模

学級数が少ない学校（以下「小規模校」という。）は、メリット（例：少人数を生かした指導の充実など）もある一方、学級数や児童生徒数が少なくなることにより様々なデメリット【表2参照】が生じることを考慮して、国は、小・中学校の標準規模を12～18学級（義務教育学校は18学級～27学級）と定めている。

#### 学校教育法施行規則（昭和二十二年文部省令第十一号）

第四十一条 小学校の学級数は、十二学級以上十八学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。

第七十九条 第四十一条から第四十九条まで、第五十条第二項、第五十四条から第六十八条までの規定は、中学校に準用する。（略）

第七十九条の三 義務教育学校の学級数は、十八学級以上二十七学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。

### (2) 学級編成の基準

原則として、学級は同学年の児童生徒で編制するものであるが、児童生徒数が著しく少ないか、その他特別の事情がある場合は数学年の児童生徒を1学級に編制することができる。また、国は、1学級当たりの人数の上限（学級編成の基準）を次のように定めている。

	小学校	中学校
同学年の児童で編制する学級	35人(1～4年生) 40人(5～6年生)	40人
複式学級（2個学年）	16人 (1年生を含む場合8人)	8人
特別支援学級	8人	8人

#### 小学校設置基準（平成十四年三月二十九日文部科学省令第十四号）

（一学級の児童数）

第四条 一学級の児童数は、法令に特別の定めがある場合を除き、四十人以下とする。ただし、特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りでない。

（学級の編制）

第五条 小学校の学級は、同学年の児童で編制するものとする。ただし、特別の事情があるときは、数学年の児童を一学級に編制することができる。

【表2】小規模校における一般的なメリット・デメリット

	メリット	デメリット
児童生徒にとっ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意見や感想を発表できる機会が多くなる</li> <li>○様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる</li> <li>○運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える</li> <li>○異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる</li> <li>○地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい</li> <li>○児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる</li> <li>◎教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○クラブ活動や部活動の種類が限定される</li> <li>○運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる</li> <li>○男女比の偏りが生じやすい</li> <li>○上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる</li> <li>○体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる</li> <li>○班活動やグループ分けに制約が生じる</li> <li>○協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる</li> <li>○教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる</li> <li>○生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける</li> <li>◎単式学級の場合と異なる指導順となる場合、単式学級の学校への転出時等に未習事項が生じるおそれがある</li> <li>◎兄弟姉妹が同じ学級になり、指導上の制約を生ずる可能性がある</li> </ul>
教員にとっ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい</li> <li>○教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。例えば、ICT機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○クラス替えが全部又は一部の学年でできない</li> <li>○クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない</li> <li>○加配なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい</li> <li>○児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる</li> <li>◎教員に特別な指導技術が求められる</li> <li>◎複数学年分や複数教科分の教材研究・指導準備を行うこととなるため、教員の負担が大きい</li> <li>◎実験・観察など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる</li> </ul>

◎は複式学級における一般的なメリット・デメリットを表す。